



# 園だより かけはし

キッドワールドこども園  
令和7年2月28日

昼夜の寒暖の差はありますが、日中は少しずつ暖かくなり春を感じさせてくれるようになってまいりました。先日は、2, 3, 4, 5歳児の生活発表会に参加していただき、ありがとうございました。2歳児は初めてのホールでの出演となり、泣いてしまうのではないかと少し不安はありましたが、どの子ども笑顔でステージに立つ姿を見ることができました。また、3, 4, 5歳児は、役になりきって演じる姿や自信をもって歌や台詞を言う子どもの姿に成長を感じとっていただけたのではないのでしょうか。これからは、5歳児の大きなイベントである卒園式もひかえていますのでどうぞ最後までよろしくお願いいたします。

残り一ヶ月となりますが、一人一人の良さを伸ばしていけるように関わっていきますので、どうぞ最後までよろしくお願いいたします。



## 行事予定

日	曜日	園児に関すること
3	月	身体計測(2・5歳児)
4	火	身体計測(3・4歳児)
5	水	身体計測(1歳児)
6	木	キッズイングリッシュ
13	木	身体計測(0歳児)、健康診断、キッズイングリッシュ
14	金	弁当日
17	月	誕生会
19	水	お別れ会
22	土	卒園式
24	月	キッズイングリッシュ
25	火	避難訓練
27	木	キッズイングリッシュ



### お知らせ・お願い

- ※ 3月の弁当日は、14日(金)です。子どもさんが楽しみにしています。忘れないようにお弁当をお持ちください。
- ※ 3月の保育料の納入期間は、24日(月)・25日(火)・26日(水)の3日間です。(期限内に納入できない場合は、教頭の奥下の方へご相談ください。)



## 本園が明るくなりました!!

天気の良い日もどこか薄暗い感じのあった本園 1階、2階でした。また、冬になるととても暗かったこともあり、どうかこの環境を変えたいと感じていました。そこで、業者の方と、どの位置に取り付けをすれば明るくなるのか話し合いを重ね照明の取り付けを行いました。



## 子どもの笑いと発達

キッドワールド総合園長 牧野 桂一

子どもと生活をする中で最も幸せを感じるのは、何とも言えない子どもの笑顔との出会いです。あの子どもたちの笑いの中にと私たちも幸せになって笑顔がこぼれてきます。

先日、子どもをお迎えに来ているお母さんが「何で子どもはいつも可愛く笑って私たちを幸せにしてくれるのでしょうか。」と語りかけてくれ「子どもの笑いにはどんな意味があるのでしょうか。」と問いかけられました。言われてみると大変興味のある問題ですので、この機会にそのことを少し考えてみたいと思います。

この子どもの笑いについては、こども園教育・保育要領や保育所保育指針の中でも「身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感を持つ」ことの大切さや「友達と共に過ごすことの喜びを味わいながら喜びや悲しみを共感し合う」と関連して友達や周りの大人と一緒に笑ったり、ほほ笑みあったりする親密なコミュニケーションの大切さが強調されています。また、生後6ヶ月未満の子どもには泣いたり笑ったりすることに対して応答的に関わるのが、子どもの発達に重要な役割を果たしていることが示されています。

子どもの笑いには新生児にみられる外の刺激とは関係なく笑うといわれる新生児微笑があります。あの笑いによって周りの大人は言葉に尽くせない幸せを感じます。その喜びはそのまま子どもに伝わります。子どもは、この笑いという最高の宝物を持ってこの世に生まれてきているのです。この笑いの交換によって、子どもは幸せに生きていく生き方を学び、周りの大人を喜ばせてくれる社会的微笑を身に付けていきます。そして、この笑いは脳の発達にも大きな影響があることもわかっています。

したがって、子どもの笑いが何らかの原因で妨げられると、子どもの愛着形成が上手くいかず、人間関係や言葉などにも様々な問題が起こってきます。このように子どもの笑いは深い人間関係から生まれてきていることが分かります。

子どもたちが笑うことにより脳は心地よくて楽しいことを認識し、幸福感を感じます。楽しい、面白い、心地よいという実感は、脳内で働くドーパミン、セロトニン、オキシトシン、ベータエンドルフィンなど神経伝達物質の分泌を促し、脳を覚醒させ幸福感を生み出します。つまり、子どもの笑いは、「脳の動きを活発にする」「ナチュラルキラー細胞が活性化して免疫力をアップさせる」「自立神経を整える」などの働きがあるのです。そして、この素敵な笑顔は、「辛いことがあっても子どもの笑顔を見ると元気になる」「子どもが笑っているだけで幸せになる」と私たちに感じさせてくれます。



一方で、多忙な現代社会の人間関係の希薄化の中でこのような笑いの交流が減って、笑いが少なくなっているという現実があります。このことは、子どもの笑いは、現状のままでは育っていかないということ教えてくれています。周りの大人は、子どもたちの成長や発達にとって欠かすことができない笑いを日常生活の中に意識的に創り出していく工夫が必要になっているのです。ここで子どもとともに笑いを作り出す工夫について少し考えてみたいと思います。

最初に、笑いを作り出すためには、子どもと「いい関係を作っておく」ことが大切になります。子どもは自分が認めた好きな人とのふれあいの中でしか、本当の笑顔は生まれてきません。何をしてもすぐに笑顔になってくれる子どもがいますが、それは、その子どもがその人を認め、その人に好意を持っているからなのです。好きな人が抱っこしてくれればそれだけで笑顔がこぼれます。そばにいてくれるだけで子どもはニコニコするのです。逆に「知らない人」や「嫌いな人」にされると楽しいはずの遊びであっても子どもは笑わず、むしろ嫌がったり泣き出したりしてしまいます。次に、子どもが「楽しい」「嬉しい」「面白い」と感じる関わりをすることです。小さな子どもは、いわゆる「作り笑い」ができません。あくまで「自分自身が「楽しい、嬉しい、面白い」と感じていることでなければ笑いは生まれてきません。でも、子どもたちは、これら3つのうちのどれかを感じたときには、すぐに笑顔になります。ですから、日常の中で、子どもが「楽しい」「嬉しい」「面白い」を感じる関わりを心がけていくことが大切になるのです。

最後に、子どもの周りにいる大人自身がよく笑うことです。「笑顔は伝染する」とよくいいますが、よく笑う人の周りにはたくさんの笑顔があります。お母さんやお父さんがよく笑う家庭では、必ずと言ってよいほどよく笑う子どもが育ちます。「絵本を見て笑う」「家族や近所の人と話すときに笑う」など、子どもに笑顔を見せる機会を多く作ると、子どもも笑顔が多くなります。

古い仏典の中に、仏様のお弟子の中の一人が、お釈迦様に「私たちが生きていくのに最も大切なものは何ですか」という質問をしたそうですが、その時お釈迦様は、そのお弟子さんに花を掲げて微笑んだ（拈華微笑）といえます。お弟子さんはそれをみて「人生で一番大切なもの笑顔なんだ」ということが分かってお釈迦様に笑顔を返したという有名な話があります。

子どもの「笑い」とは知的な発達の証であり、子どもの情緒の成長につながる重要な行為であるということが確認できたと思います。「笑う門には福来る」ということわざもありますが、子どもとともに一緒に笑いながら笑顔に満ちた一日一日を過ごしていきたいものです。



#### <エッセイに一言>

ストレス社会と呼ばれている現在ではありますが、「笑い」について今回のエッセイを読み振り返ってみると、深く考えさせられる内容となりました。

子ども達が楽しそうに遊ぶ様子や笑顔で「園長先生、おはよう」と話しかけてくる姿をみると気持ちが軽くなります。子どもたちの沢山の笑顔に囲まれる中で、子どもの成長を身近で感じる事ができるこのキッドワールドこども園で働いていてよかったと思います。

これからも子どもの笑顔で溢れる環境作りや、子どもとの関りを大切にしていきたいです。

キッドワールドこども園 園長 高津 宏児

